

新らしい物を作り出す楽しみと苦しみ

山田 孟

今回、日本透析医会の法人化が達成されたことを心からお祝い申し上げますと共に、理事会に出席して、設立に関する討議に加わらせていただいた1人として、稲生会長、平澤、太田両副会長、鈴木先生の大変な御苦勞、特に粘り強い厚生省との折衝に最大の敬意を表するものであります。

又、私自身この法人設立の推移から、新らしい物を作り出す時の「理念と作業」について大変勉強をさせていただきました。

私も現在一地方都市の医師会長として開放型医師会病院の設立に心を砕いていますが、会員のコンセンサスを得ることの難しさを身をもって体験しております。

医療の中で少くとも透析と言う共通の仕事をしているグループでさえ法人化にあれ程の御苦勞があった訳ですから、まして診療科目、規模、会員の年齢等がまちまちな組織でのコンセンサスを得ることはもっと大変な事だと覚悟しているところです。

そこで、新らしい物を作り出す時の心構えとして感じていることを述べさせていただき諸先輩の御教示を仰ぎたいと存じます。

その第1はリーダーシップは勿論大切ですが、ムードだけでは会員を納得させることは出来ず、民主主義の基本は科学的調査に基づいた資料を中心に全会員に討議していただくことであること。

第2は「住民のため」、「医学、医療の進歩のため」は錦の御旗ではあってもそれだけでは会員

は納得しない。一方、会員のメリットのみを声を大にしては住民が納得しないことを知るべきであること。

第3は会員の置かれている立場、規模、経営基盤がそれぞれ異なることを認識すべきで特に資金が必要なケースでは、その出資の方法について十分な討論が必要であること。

第4は十分な討論をした後は、その目的とすることが、住民のニーズに合いしかも21世紀の医療を展望して会の活性化のためになると判断されたならば「小異を認めあって大同につく」心構えを会員1人1人が持つ必要があること。

第5は住民のニーズに応えるものであり、行政もそれを認め、会員それぞれが21世紀を展望しての正しい判断を認めるものであれば必ず成功することを確認して勇気を出して作業を進めること。

第6、誰かに、何かに誘導されたものであったり、役員の自己満足、マスターベーションによるもので会員の自主性が伴わないものは不成功に終るか後に問題を起こすことになること。

以上、透析医会法人化の成功から得ました教訓を基に今後とも地域医療に精進したいと思います。

皆様の益々の御指導をお願い申し上げます。